

港区立高輪台小学校
令和7年度 授業改善推進プラン

育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使う力 ○日常生活における人との関わりの中での伝え合う力 ○言葉を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力 ○言葉がもつよさを認識する力や言語感覚 ○国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 77.0%</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査や区の標準学力調査(CBT)の結果では、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国平均や東京都平均を上回っており、おおむね身に付いているといえる。 ○全国学力・学習状況調査の結果では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「書くこと」に関する問題で、全国平均や東京都平均との差が低く、課題がある児童が多いことが考えられる。 ○全国学力・学習状況調査や標準学力調査(CBT)の結果によると、書くことに関する正答率が低く、自分で文章を書くところに課題が見られた。また、書くことに対しての苦手意識や抵抗感が強く、書く内容が思い付かない児童や、相手意識をもって分かりやすく書こうという思いをもてない児童が多い。 ○物語や説明文などの内容を正しく読み取ることに課題がある。 ○漢字を読むこと、書くこと定着がまだ十分ではない。漢字を文や文章の中で使うことに課題がある児童が多い。 ○標準学力調査(CBT)の結果では、「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題(漢字の由来)で、港区平均を下回って 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的をもって学習に取り組めるよう、明確で必要感のある学習課題や学習計画を設定する。また、児童自身がめあてをもって学習に取り組んだり、自分の学びを振り返り、次に生かしたりすることができるように指導する。 ○指導者が学習の系統性を意識し、児童の学習経験や既習事項等を十分に把握した上で、必要に応じて繰り返し指導したり、次の学習を見通して指導したりするなど、実態に応じた指導を行う。 ○日常的に文や文章を書く機会を増やし、書くことへの苦手意識や抵抗感を減らす。 ○書くことにおいて、目的意識や相手意識を明確にもたせる工夫をする。書く内容を児童の身近な題材と結び付けて設定するなど、児童が主体的に書く活動に取り組めるよう工夫する。 ○苦手意識をもつ児童に対して、個別指導やスモールステップで達成感を得られるような工夫をしていく。 ○「読むこと」では、学習課題や発問を工夫することで、児童が意欲的に文章を読み進めていけるようにする。また、児童同士の協働的な活動を通して学習内容を深めていく。 ○漢字については、教科書の「漢字の広場」等、既習漢字を用いた文や文章を書く活動を定期的に取り入れ、漢字に対する苦手意識や抵抗感を減らしていく。漢字を書くことだけでなく、成り立ちなどを合わせて指導することで、漢字に関心をもてるようにする。また、日常の中で漢字を使って文を書くことを意識させ、漢字を使うことのよさを実感させたり、朝学習や家庭

		<p>いる。</p> <p>○語彙が少なく、自分の思いを伝えるために適当な言葉や表現を考える力が不十分である。</p> <p>○自分の考えをもって対話したり、互いの考えを共有したりする。</p>	<p>学習等を活用し、繰り返し学習することで定着を図ったりする。</p> <p>○学校図書館を活用し、担任や司書・図書支援員が読み聞かせをしたり、調べ学習を取り入れたりして、読書活動を充実させ、語彙を増やし、言葉に親しみがもてるようにする。</p> <p>○言葉そのものに興味をもたせたり、言葉のよさに気付かせたりするような指導を行う。その際、国語辞典や教科書巻末の「言葉のたから箱」を活用する。</p> <p>○協働学習支援ツールを使用して、書いたものを読み合ったり発表したりする活動の中で、互いの考えを受容する雰囲気をつくり、相手の考えを聞いて自分の考えを深める機会を設ける。</p>
--	--	---	--

社会	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>○主体的に課題を追究する力</p> <p>○情報を選択、活用する力</p> <p>○社会的事象を自分の生活と関連付けて考える力</p>	<p>○資料等から自ら学習問題を見だし、単元を通して解決していくこうという意欲をもち学習すること。</p> <p>○表やグラフ、写真などの資料を適切に読み取ること。また、読み取ったことを適切に表現し、問題解決に活用すること。</p> <p>○複数の資料を関連付けて、社会的事象を読み取ること。</p> <p>○地域社会の一員として、大切なことや行っていることを実生活と結び付けること。</p>	<p>○児童の興味関心を引き出す導入を行い、主体的に課題を追究することができるような学習活動を設定し、問題解決の過程を重視する。</p> <p>○調べ学習の型を指導し、分かったことを基に考えたことを書く時間を毎時間設定する。</p> <p>○資料を関連付けて考えさせるために、時間の流れや変化の仕方、時代とともに変わった点など、資料を読み解く上で必要な視点を習得させる。</p> <p>○地図やグラフなどの資料の見方を指導し、必要な情報を読み取り、活用する力を育成する。</p> <p>○情報機器を活用することで、社会的事象への関心をもたせる。</p> <p>○学習したことを発信できるようにする。学校生活での取り組みなどつなげて、学習した内容を日常生活に生かす場を設ける。</p>

算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>○数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだすとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力</p>	<p>〈第1～2学年〉</p> <p>○計算だけであればよいのではなく、場面を理解して立式したり、考え方を説明したりする力が不十分である。</p> <p>○「知識・技能」、「思考・判断・表現」共におおむね身に付いているといえるが、繰り上がりや繰</p>	<p>○問題場面を正確に捉えるために、授業で問題を扱うときには、「どんな条件が提示されているのか。」「何を求めるのか。」を明確にすることで児童が立式の根拠を説明できるようにする。低学年では、「聞かれていること」「分かっていること」に線を引き、問題場面を整理して捉えるとともに、問題となる場面を具体物操作と半具体物操作で確認してか</p>

○図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力

○伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察する力

○身の回りの事象から設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする力

○数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度

り下がりの問題の正答率がやや低い。

○「水のかさ」や「長さのたんい」では、単位換算して答える問題の正答率が低い。また、定規を使って直線を引くことや、正確に直線の長さを測る問題の正答率が低い。

〈第3～6学年〉

本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 73.0%

○標準学力調査(CBT)の結果では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に推定全国値を上回っている。港区平均を下回る領域は以下の通りである。

第3学年→「数と計算」、「図形」
第6学年→「変化と関係」
各学年で最も正答率が低い領域は以下の通りである。

第3学年「数と計算」
第4学年「図形」
第5学年「データの活用」
第6学年「変化と関係」

○東京ベーシックドリル A の結果では、正答率が6割未満の設問は以下の通りである。

「図形の構成要素の名称を答えたり、図形を正確に作図したりする問題」
「資料から読み取ったことを正確に表やグラフにまとめる問題」
「単体量あたりの大きさや、グラフから割合を求める問題」

○全国学力・学習状況調査の結果では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に全国平均や東京都平均を上回っている。正答率が低かった設問は以下の通りである。

「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断

ら図や式に表すようにする。考えについては、図や具体物を用いて説明する機会を設けていく。中学年以降では、既習事項を確認した上で、図や表と関連付けて説明できるよう指導する。

○テープ図や数直線図など、学年相応の図や表を用いて、立式の根拠を明らかにして解決できるようにする。

○割合の系統的指導については、問題文に書かれた情報を必ず数直線図に表すよう指導する。「数直線図・□を使った式・答え」のワンセットで学習する流れを徹底して指導していく。

○図形領域の指導において、定規、分度器、コンパスなどの測定や作図で用いる教具について、その正しい使い方やそれぞれの特徴について、各学年で用いる際に繰り返し確認していく。また、図形の作図方法について復習する時間を設け、教具を正しく使って正確に作図できるようにする。図形の具体物を用いることで構成要素の位置や数を理解しやすくし、定着を図る。

○自分の考えを分かりやすく説明するためには、分かりやすく自分の考えを伝えるという目的意識をもたせた上で、自力解決に取り組ませることが大切である。まず、一人一人が自分の考えをもてるよう、学級全体で見通しを確認し、共有する。次に、自力解決の時間には児童のよい考え方を称賛し、児童に自信をもたせた上で解決に取り組ませる。そして、互いのノートやタブレット端末を見合い、他者の意見を取り入れてよりよい考えを構築する時間を作る。分かりやすい考えについては全体に共有し、どのように考えを書けば、友達に自分の考えが伝わるのかを考えるよう指導する。

○算数科は、系統的に内容が連なっている。本時で学習する問題も以前学習した知識を活用して解決していく。そのことを踏まえ、1時間で完結するのではなく、常に、「今日は、前回のこのような内容を活用して問題を解決した。」「次はこんな問題を解決してみたい。」など、学習の振り返りを書かせていく。

		<p>し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」 「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加法と被加法が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」</p>	<p>このノートが学習の積み重ねになり、困ったときには自分のノートやタブレット端末を振り返り、解決の手だてとできる児童を育成していく。</p> <p>○自主学习や家庭学習等で、繰り返し練習問題を行うことで、「数と計算」領域の基本的な学力の定着を図る。</p> <p>○資料の一つ一つの情報を漏れなく正確に数える方法を確認し、資料から読み取ったことを正確に表やグラフに表せるようにする。</p>
--	--	---	--

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<p>○自然事象に対する基本的な概念や知識、規則性の理解、科学的に問題を解決するために必要な観察・実験等の基本的な技能</p> <p>○自然事象から問題を見いだす力、問題の予想や仮説を発想する力、解決の方法を発想する力、観察・実験の結果を解釈し結論を導く力</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率62.0% </div> <p>○科学的に問題を解決するために必要な観察・実験等の基本的な技能に課題がある。基本的な知識は身に付けているが、表面的な理解にとどまり、観察・実験で活用するまでできていない。</p> <p>○自然現象から問題を見いだす力、解決の方法を発想する力に課題がある。自分なりの予想を立てることはできるが、根拠をもって予想し、仮説をたてることは難しい。</p> <p>○理科の見方・考え方ははたらかせて観察・実験の結果を解釈し結論を導く力に課題がある。結果から結論を考察することに課題がある。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果から、全国的に、児童には生活経験からの類推・知識の演繹的な応用・空間把握能力に課題がある。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に全国平均は有意に上回っているが、東京都平均との比較では若干上回って</p>	<p>○ICTを活用して映像で様子を見せ、観察・実験を視覚的に理解できるようにする。</p> <p>○実験・観察を実施し、そこで得た知見を教科書や参考資料などと照らし合わせて確実な知識につなげる。</p> <p>○児童自身が問題を見いだすことができるよう、生活経験や生活科の学習との関連など身近な現象を扱った導入を行う。</p> <p>○予想を立てるときにはその理由をはっきりさせ、自分の考えを基にすると実験や観察の結果がどうなるのかをあらかじめ考えさせる。見通しをもたせて実験・観察に臨ませるとともに、結果から自分の考えがどうだったかを検証させる。</p> <p>○単元を通して、身に付けさせたい資質能力を明らかにして指導を行う。</p> <p>○振り返りを行い、自己の課題を見付けさせたり、次のめあてをもたせたりする。</p> <p>○児童の様子や振り返りの記述から学習状況を見取り、適切な言葉かけを行う。</p>

		<p>いる程度であり、課題がある。東京都平均を下回っている問題は6題あり、いずれも資料に基づいた問題設定・予想・計画・考察に関する問題である。このことから、知識の演繹的な応用に特に課題があると類推される。</p>	
--	--	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<p>○学校、家庭及び地域に親しみをもち、安全に生活する力</p> <p>○身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える力</p> <p>○自立し、生活を豊かしていく力</p>	<p>○学校探検を通して、校内で安全に生活しようとする意識を高めることができた。</p> <p>○家庭生活で互いに支え合い、自分の役割を積極的に果たすことが難しい児童もいる。</p> <p>○身近な人々と伝え合ったり、自然や植物と関わったりして、すすんで楽しく交流することに課題がある児童もいる。</p>	<p>○安全に生活する力を高めるためには、日々の学校生活の中で、児童の実態に合わせて、その都度考えさせる。</p> <p>○ICT を活用し、植物の成長の様子などを指導者が紹介したり、児童のタブレット端末を用い、互いに植物の成長の様子などについて紹介し合ったりして、興味や関心を高めさせ、すすんで世話をし、植物に親しみをもち、大切にすることができるようにする。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<p>○音楽の要素の働き方と曲想との関わりを感じ取ったり考えたりしながら、曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えて演奏したりする力</p> <p>○主体的・協働的に学びながら、自分の感じ方や考えを広げたり、修正したりしながら探究し、学びを深めていく力</p>	<p>○楽器の基本的な奏法が身に付いていない児童が見受けられる</p> <p>○音楽の要素を手がかりに、曲のよさを感じ取ったり演奏したりすることや、自分なりのイメージを豊かに広げたりすることが苦手な児童が一定数いる。</p> <p>○全体的に「聞く」「聴く」力が不足している。また、疑問をもって粘り強く探求する意欲に欠ける児童が少なくない。</p>	<p>○常時活動で、基礎・基本を身に付けさせながら、題材や教材曲に合わせて発問・学習形態、ワークシートの内容を工夫したり、ICT活用したりすることにより学習効率を上げ、深い学びが実現できるようにする。</p> <p>○授業内での、児童のアウトプット・インプットバランスに留意するとともに、児童同士の意見交流や、グループでアンサンブルづくりをするなどの、音楽活動を通して、主体的・協働的に学べるようにする。</p> <p>○技能の定着を目指し、楽しんで取り組める活動を取り入れる。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<p>○造形的な視点について理解し、発想や構想したり、自分の見方や感じ方を深めたりする</p>	<p>○自分なりの発想や構想していくことに経験的な個人差があり、試行錯誤を重ねながら粘り強く表現することが難しい</p>	<p>○児童の実態や発達に応じた題材や材料設定を行い、児童の意欲を高めるように作品作りの予告や導入を工夫したり視点を絞って表したいことを思い付くようにしたりして、児童の</p>

	<p>ことで身近な材料や用具を使いながら表し方を工夫してついたり表したりする力</p> <p>○造形的に発想や構想をしたり、自分のイメージをもちながら意味や価値を創り出したりする力</p>	<p>児童がいる。</p> <p>○発想に対して表現技能が追いつかず、材料や用具から自分なりに表すことが難しい児童が見られる。</p>	<p>興味関心を引き出す。また、作品鑑賞の時間を確保し、お互いの表現を尊重したり参考にしたりしながら見直しをもって取り組める力を伸ばす。</p> <p>○様々な材料や道具に触れたり、経験したりできるような題材設定を行い、児童が自ら考え、試し、価値付けをして表現していくという学びの過程を何度も繰り返しながら試行錯誤できる環境づくりを行う。また、多様な技法を身に付けさせるように、造形遊びなどを計画的に行い、経験を積み重ねさせる。</p>
--	--	---	--

家庭	<p>育成を目指す資質・能力</p> <p>○日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能</p> <p>○生活を見つめ、家族の一員として家庭で実践する力</p>	<p>学習評価等に基づく課題</p> <p>○生活経験が乏しく、調理や裁縫の技能が十分に身に付いていない。</p> <p>○学習したことを、生活に生かそうとしたり、家庭で実践し継続したりする意欲が低い。</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <p>○ICT や視覚的な教材を活用等、効果的に技能を身に付けられるようにする。また、実践的、体験的な活動を重視した学習を展開する。</p> <p>○学習したことをすぐに実践することを意識させ、生活に生かせるようにする。また、よりよい生活の工夫や自分と家庭との関連を意識させ、家庭での実践において保護者にも協力を依頼する。</p>
----	---	---	---

体育	<p>育成を目指す資質・能力</p> <p>○特性に応じた運動の行い方や、健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付ける力</p> <p>○運動や健康についての課題を見付け、解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力</p> <p>○運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度</p>	<p>新体力テスト、学習評価等に基づく課題</p> <p>○学習したことを共有したり、相手に分かりやすく伝えたりする力。</p> <p>○1年男子特に長座体前屈が全国より6cm低い、女子は7cm低い。2年女子は立ち幅跳びが4cm低い。3年男子は長座体前屈が6cm低い、女子は反復横跳びが7回少ない。4年女子は反復横跳びが3回少ない。5年男子は長座体前屈が3cm低い、女子は20mシャトルが4回少ない。6年男子は立ち幅跳びが6cm低い、女子も立ち幅跳びが3cm低い。</p> <p>2・4年男子は全国平均に下回っているものが平均に比べ</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <p>○単元を通して、身に付けさせたい3つの資質能力を明らかにして指導を行う。</p> <p>○振り返りで学習カードを活用し、自己の課題を見付けさせたり、次のめあてをもたせたりする。</p> <p>○児童の様子や学習カードの記述から学習状況を見取り、適切な言葉掛けを行う。</p>
----	---	--	--

		て-1である。 ○運動する子とそうでない子の二極化。	
--	--	-------------------------------	--

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○場面や状況に応じたコミュニケーションを行う力 ○既習言語を用いた豊かなコミュニケーションを行う力 ○すすんでコミュニケーションを図ろうとする力	○相手に対して、どのようにして英語で伝えたらよいか考える力を付ける。 ○誰に対しても自分の思いや考えを英語で伝えようとする力を育む。	○児童の手本となるコミュニケーションを示せるよう、担任又は専科教員とNTのチーム・ティーチングを充実させる。 ○児童が必要を感じる課題を設定し、「やりとり」や「スピーチ」等の言語活動を充実させる。 ○ワークシート等を用いて、音声に慣れ親しんだ語句を読む・書く技能を定着させる。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○自他の生命を尊重する態度、思いやり、偏見や差別をなくす力 ○希望や勇気、努力と強い意志をもち高い目標に向かって努力できる力 ○自立心や自律心をもって人としてよりよく生きる上で大切なことや自己の生き方について考えを深める力	○差別や偏見のない思いやりの心情を育む。 ○目標に向かって努力できる力を伸ばす。 ○よりよく生きる上で大切なことや自己の生き方について考えを深める。	○教材を通して、自己を振り返る時間や見つめ直す時間を確保する。 ○学習内容を多面的・多角的に考えられるようにするためのペアや全体での話し合い活動を取り入れる。 ○教材を効果的に提示するために、場面絵やICTを活用する。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度 ○自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う力	○自主的な態度を育てるための学級会を実践する力を付ける。 ○自分たちでやり遂げようという意識を育み、学校のためにやろうという責任感を育てていく。	○特別活動部から提案して、学級会は各学級自主的な態度を育てられるように、児童が中心となって話し合いができる環境を整える。 ○学校行事、委員会活動、クラブ活動で、児童からの意見を聞きながら一緒に作り上げる意識を育てられるようにし、よりよい学校生活を目指して活動をすることができるように支援する。 ○学級の係活動の活動時間を十分に確保する。 ○キャリアパスポートを活用し、係活動や当番活動行事や日々の生活を通して、よかったこ

			と、次に生かしたいことなど成長したことを一人一人が気付けるようにする。
--	--	--	-------------------------------------

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動などを通して、課題を設定したり、課題意識をもったりする課題設定の力 ○必要な情報を取り出したり収集したり、整理分析したりする課題解決の力 ○気付きや発見、自分の考えなどをまとめる、主体的・探究的に学習活動に取り組む力 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が「やってみたい」「調べたい」「伝えたい」と思えるような課題に出会えていない。 ○課題の解決に向けて、見通しをもって取り組むことができない。 ○探究的な学習のプロセスをくり返し行えるような学習計画づくりを、児童と共に行う必要があること。 ○課題解決に対する粘り強さが十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が「調べてみたい」「解決したい」「伝えたい」と思えるような導入の工夫をする。また、日常生活の中から課題を設定し、児童が自分事として学習に取り組めるように工夫する。 ○単元全体の計画を子どもとともに立てることで、見通しをもって活動に取り組めるようにする。 ○他教科での学習を生かし、情報収集、整理分析、まとめ、表現する活動をくり返し行う。 ○課題解決のための時間を十分に確保したり、さまざまな解決方法を指導したりすることで、よりよい解決に向けて粘り強く取り組めるようにする。 ○プログラミング学習については、情報担当と連携し、教員同士での学び合いの場を設定したり、授業を見合ったりする。ICT 支援員を授業内でも効果的に活用していく。